

全員が力がつくといいが、いいか
 (な)うなくなろ。

ガクとアキラは
 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)
 途中までいる。

たてえは:

ハムカ
 上虎
 アキラ
 のぶみち

またいい。
 「名は体を現す」
 ようにするていい。

登場人物表

ノブ (18)	キミオ (30)	気弱な高校教師。
アキラ一派 (18)	ガク (35)	出世を目指すヤクザ。
アキラの一派。3人くらい。	キミオのクラスのヤンキー	
キミオのクラスのいじめられっこ		

年配の先生 (60代)

また、
 ノブはこのシリアスの中では端役なぞ。
 「いじめられっ子」という役名でよいと思ってる。

ノブ、年配の先生、アキラ一派は同様の端役で、
 キミオ、ガクがメイン役、アキラが脇役な感じ。

ついでに役名も → に促せば

キミオ (30)
 ガク (35)
 アキラ (18)

ハムカ (30)
 上虎 (35)
 アキラ (18)

ノブ (18)
 アキラ一派 (18)
 年配の先生 (60)

いじめられっ子 (18)
 アキラ一派 (18)
 年配の先生 (60)

の壁になる。

と、物語の構造を定ませる
 登場人物表になる。

(以下、キャラクター設定のメモ)
 ノブは、一発屋の親戚から来た。

「先生と生徒は教室にいまいし
ここでやるわかせること。」

「こまごま
"タ"教師もの
というジャンルがセーブ・Purr?の
子。」

○南高校・外観

○南高校・教室

「園の or 教師もの」
「先生と生徒は教室にいまいし
ここでやるわかせること。」

生徒は 教華の 誰も聞いていない。

キミオ (30) が授業をしている。
金髪のアキラ (18) の一派が、ノブ
(18) の背中にゴミを投げている。

キミオ 「授業終わりま...」

キミオはアキラ一派のところへ。

アキラ 「遊んでるだけですよ？」
アキラ 「遊んでるだけだつてんのだろ！」

アキラ 「遊んでるだけだつてんのだろ！」
アキラ、キミオの出席簿とチヨーク箱
を蹴り落とす。キミオ、びびる。

アキラ 「はーい」
日直生徒の起立礼のかけ声で授業が終
わる。アキラたちははじめを再開。

キミオ 「おおい、大丈夫か」
ノブ 「大丈夫です」
ノブの顔、青タンがきている。

キミオ 「大丈夫じゃないだろ」
キミオ 「せ、先生に相談しなさい」
ノブ 「相談したら解決するんですか」

キミオ 「先生がんばるから」
ノブ 「キミオ先生、口ばかりじゃん」
ノブ、吐き捨てて帰っていく。

何とも言えず立ちすくむキミオ。

○高校・玄関・夕方

「下校時」
「先生はいっしょに帰るのか？」
「先生はいっしょに帰るのか？」

○道路・帰り道

暗い顔で軽自動車を運転するキミオ。ドゥンツ。
キミオ 「口ばかりか...」

キミオの車が前の車に追突。

「起立礼」
「先生はいっしょに帰るのか？」
「先生はいっしょに帰るのか？」

「先生はいっしょに帰るのか？」
「先生はいっしょに帰るのか？」
「先生はいっしょに帰るのか？」

「先生はいっしょに帰るのか？」
「先生はいっしょに帰るのか？」
「先生はいっしょに帰るのか？」

「先生はいっしょに帰るのか？」
「先生はいっしょに帰るのか？」
「先生はいっしょに帰るのか？」

キミオ「痛：なんて日だよ！」

追突された黒塗りフルスモークの高級

車から、どろみてもそっち方面の男、ヤクザの格好をした

ガク(35)が降りてくる。

わかりやうく。

キミオ「最悪だ！」
ガク「車寄せろ」

○路肩

11:50 路肩にて

車から降りて話しているキミオとガク。

または「車から降りて話す二人」
現在形
話しているx
現在進行形

キミオ「すいませんでした！」

ガク「すいませんで済んだらヤクザはいら

ねんだよ」

キミオ「やっぱりヤクザなんですすね！」

ガク「修理代と示談金で100」

キミオ「100? なんとかならないですか！」

ガク「ならねえな。あんたが払えないなら

あんたの会社に払ってもらおうか？」

キミオ「それは勘弁してください！会社じゃ

ないし！」

ガク「は？学生か？」

キミオ「違います！：教師なんです」

ガク「教師？どこのだ？」

キミオ「南高！」

ガク「ははーん。先生。どうしようか？」

キミオ「どうしましょう！」

ガク「おれに勉強でも教えてくれんのか？」

キミオ「それならいくらでも！」

ガク「いくらでも？」

キミオ「いくらでも！」

ガク「じゃあ明日から頼むぜ先生」

キミオ「は？」

ガク「おれの家庭教師になれ。半年後、

おれが下底辺でもどっかの大学に受かった

ら、車のことは15万で許してやる」

キミオ「まじで言ってます？」

ガク「まじだよ！こっちはいつでもマジな

んだよ！100万か、家庭教師やって15

万か、さっさと選べ！」

キミオ「か、家庭教師します！」

無理ありすぎ。

「ガクの家庭教師に」というオモシロEを描く為には。
ムリやり不可ぬている。これを「都合主義」という。

「ガクのバグストーリー」は？
これは「まじ」から「現実」なのだ。

○ 翌朝 南高校・キミオのクラス 朝 ← ?

キミオじゃない年配の先生が話している。

年配の先生「キミオ先生は都合により半年間
休職されることになりました」

アキラ「休職だって！だっせー」

アキラ「休職だつて！だっせー」

アキラ「休職だつて！だっせー」

アキラ「休職だつて！だっせー」

アキラ「休職だつて！だっせー」

○ ガクの事務所 午前中

キミオとガクがデスクに座っている。

デスクには大量の参考書。

キミオ「そういえば、なんでヤクザさんが
勉強なんですか？」

ガク「最近では極道も学歴社会であら。大学
で経営を学んで一発逆転狙いだ」

キミオ「ヤクザも大変ですね」

ガク「いいか。授業でおれがわからなかつ
たら殴る。おれがテストで間違えたら間違
えただけ殴る。わかつたな」

キミオ「なんで僕がそんなに殴られるんです
か？」

ガク「わかつたな！」

キミオ「はい」

ガク「じゃあ、授業を始めろ」

○ 何度もガクに殴られながら教えるキミオ

○ 同・夕方

ガク、ノートを閉じる。

ガク「先生。けっこうわかりやすかつたぞ」

キミオ「そりゃちゃんと準備しましたから」

ガク「なんだよ。普段はちゃんと準備して
ないのかよ？」

ここでキミオ(南)がいないでしょ。
「なんでヤクザが家庭教師を？」
と 強引な時点で(南)が来た。

とするとこのシーンは
どこかで行って
きた

「キミオ先生は都合により半年間
休職されることになりました」

↑ とくにストーリーには関係ない
あんな中から選んだのは脚本(ストーリー)に
関係ない。

キミオの斜光が窓から射しこむ中、
ガクがたまたま椅子を移動して
机にドヤリと座る。

キミオのようにガクの机に座る。

この自由の
4人組なのよ！

「バカはいつか勉強した方がいい」
vs
「おれは殴られながら先生の授業を受ける」

と描いたものの、
その面白さを描けるまで粘れ！

この11443
「おれは殴られながら先生の授業を受ける」

この伏線が
思いつく
あたり(使えない)

言い返せないキミオ。

○ 数日後・定食屋・昼

キミオとガクが定食を食べている。

ガク「お前なかなかいい先生だと思っぞ」

キミオ「そんなことないですよ僕なんて」

生徒にもなめられるし。追突した日だっ

て、クラスのヤンキーにすごまれて」

ガク「びびって引いちまったのか」

キミオ「どうせ僕の言う事なんて誰も聞か

いす」

ガク「そりやお前がそんな根性なしな限り

誰も言う事なんか聞かねえよ」

キミオ「僕だって一生懸命やってるんです」

ガク「男は結果出してナンボだろうが。お

れが全部大学落ちてもお前言うんか？僕は

一生懸命やりましたって。んなこと言った

らどうなるかわかってんだろうな」

キミオ「じゃあ、どうしろっていうんですか」

ガク「どうしろこうしろじゃねえよ。自分

で考えろ。頭使えよ。教師なんだからよ」

キミオ「そんなこと言われても」

ガク「まあ、ひとつ言えるのは：男は自分

より強い相手にしか従わねえ」

キミオ「ケンカでもしろって言うんですか」

ガク「その通り」

キミオ「そんなことできるわけないでしょう」

ガク「おいおい、相手は高校生のガキだろ？

楽勝だろうが。いいか、ケンカだって最後

は頭使えばいいんだよ」

キミオ「どう使えばいいんですか」

ガク、キミオに頭突きする。

キミオ「いてー！」

ガク「こう使うんだ。がははは」

キミオ「冗談はやめてください」

ガク「マジだよ。額の骨は一番カタいんだ。

理科で習わなかったか？先生よ」

キミオ「習いませんよ。いたたた」

- 返さない

これを
言かせたい為の

このセリフ。

「(迎) なんかいい先生、かどうが」

「なんかいい先生、かどうが」

席中で一度も指を刺していない。

○ガクの事務所・モンタージュ
ガクに勉強を教えるキミオのモンタージュ。2人はどんだん厚着になっていく。テ
ストしたり、居眠りしたり。キミオはガク
のパンチをかわせるようになってきてい
る。

○大学受験会場・外・冬

キミオとガクが掲示板を見ている。

キミオ「ありましたよ！ありました！」

ガク「当たり前だ！おれに不可能はねえ」

キミオ「おめでとうございます！ほんとによ

かった：ガクさん、がんばりましたね：」

ガク「はははは。先生もな」

キミオ「よかった：ほんとに：あ」

キミオが見つけたのは、アキラ一派。

黒髪になってる。受かったみたいだ。

キミオ、目をそらし反対を向く。

ガク「何隠れてんだよ」

キミオ「いえ、隠れてなんて：」

ガク「ははーんあんなガキにびびったのか」

キミオ「もつといかつかつたんですよ」

ガク、キミオに封筒を渡す。

ガク「知るか。まあいいや。これ。授業料
だ。15万。半年間世話になったな」

キミオ「こちらこそ、ありがとうございます」

ガク「じゃあ耳揃えて、車の15万。もら
おうか」

ガク、キミオから封筒をぶんどる。

キミオ「ああ：そうでしたね：」

ガク「飲みに行くぞ。合格祝いにおごつて
やる」

ガク、キミオを引っ張って行く。

○一ヶ月後・南高校・卒業式後の教室

キミオのクラス。キミオが教壇に立つ。

キミオ「最後まで面倒見れなくてごめん。こ
れからの人生は：」

この段取りは？

この段取りは？

みんな筒を持って騒いで誰も聞いていない。アキラ一派は蔑むような目でキミオを見る。ノブも無感情だ。うつむくキミオ。

○職員室

落ち込んで戻ってくるキミオ。外が騒がしい。そこへ、臨時担任をしていた年配の先生が。焦っている。年配の先生「キミオ先生、来てください！」先生、キミオの腕を引っ張っていく。キミオ、出席簿とチョーク箱を持ったまま、引っ張られて行く。

○校門

人だかりができています。キミオが分けて入ると、そこにはなんと、黒塗りの車で乗り付けたガクがアキラ一派にからんでいる。アキラ半泣き。

年配の先生「つ、連れてきました！」

ガク「あんたがこいつらの担任の先生か！」

キミオ「ガ、ガクさん！」

ガク「こいつらの担任かって聞いてんだよ！」

キミオ「は、はい：そうですが」

ガク「後輩たちにお祝いの言葉でもかけてやろうと来てみたんだよ、こいつら大先輩にガンつけてきやがったんだけどどういう教育してんのかなおたくのクラスは！」

キミオ「うちの卒業生だったんですか！」

キミオ、まわりを見回すと、先生生徒総びびり。ノブもいる。

ガク「どういう教育してるんですか先生！」

キミオ、ガクに近づいて囁く。

キミオ「どうしたんですかガクさんやめてくださいよ」

ガク、キミオの胸ぐらをつかみ囁く。

ガク「なめられたままでいいのかよ先生」
 ガク、キミオを突き飛ばす。出席簿と
 チョーク箱とともにキミオ吹っ飛ばす。
 ガクはアキラを軽く、見た目は派手に
 蹴っ飛ばす。アキラ泣いてる。
 アキラ「すいません！すいません！こいつ
 が！こいつのせいなんです！」
 アキラ、ノブを指す。ノブ、焦る。
 ガク「知るかくそガキ！」
 ガク、またアキラを蹴る。
 キミオ、ノブと目が合う。
 キミオ立ち上がり、深呼吸。鋭い目で
 キミオ「おれの生徒になにさらしとんじや
 コラア！」
 キミオ、ガクにつかみかかる。
 ガク、応戦。ステゴロが始まる。
 キミオ、慣れたもので、ガクのパンチ
 をすいすいかわしていく。
 ガク「おらあ先生！根性見せてみる！」
 キミオ「うあああああ！」
 キミオ、強烈な頭突きをガクにお見舞
 いする。
 ゴンツ！激しい音をたて額がぶつかり
 あう。ガク、倒れ掛かりキミオにつか
 まり：ささやく。
 ガク「おれにもこんな先生がいたらな」
 ガク、その場に倒れる（ふり）。あたり
 は静まり返る。
 アキラ、立ち上がって涙をぬぐう。
 アキラ「せ、先生、すげーじゃんかよ」
 キミオ、アキラの胸ぐらをつかんで突
 然頭突きを食らわす。アキラ吹っ飛ばす。
 キミオ、他のアキラ一派にも激しい頭
 突きを食らわして、
 キミオ「お前ら：ノブに謝れ」
 絶句するアキラ一派。
 キミオ「あやまることあるだろうが！」
 アキラ一派、しぶしぶノブに土下座。
 アキラ一派「すいませんでした：」
 ノブ、びっくり。そんなノブの肩を叩

こいつをこいつ議論は
 最初に戻すのだ。
 (可成り「気弱教師のノブ」に
 教えることに!?」なるのかた。
 つまり、僕はこのことを考へてから
 この行いには、何となく夢中に
 なっていたりする。

ここには
 「暴力教師 vs 気弱教師」の
 コントラストが非常に上手く
 「こいつも勉強したのか?」か「バカなの?」
 「さくさくさくさく」
 vs
 「気弱で克服出来ず「教壇の上へ上り」
 のバトル(コントラストが
 異なる動機が「さくさく」が
 出てくる。

もし、
 「暴力生徒 vs 気弱教師」
 の面白さは非常に上手く
 描けていた。ガクにもキミオにも
 感情移入できている。
 ここに「アキラ」は登場した。

以下、ガクが狂言の「ガク」
 (可成りこいつをこいつしたのか?)
 「家庭教師の不礼」と考へてみるか
 ここまで「さくさく」普通?
 ここに「アキラ」は登場した。
 「私はこのコントラストを考へた」といふのが
 キミオ

二行あけは
 3,7,11,15,19,23
 -1行あけ
 -1行あけ

キミオ「卒業おめでとう」

校舎に向って歩き出す。
 ガクも立ち上がって、車に歩いて行く。
 清々しい笑顔である。
 ネクタイをゆるめ、堂々と歩いて行く
 キミオもまた、額から血を流しながら
 も、その顔は少し笑っている。

- タイトル「ヘッド・バッド・ティーチャー」
- エンドロール

↑
 この「最初」は「最初」
 「不た」は「た」から「こ」になるか？

この話のテーマは何？

「ヘッドバット(頭突き)」と
 「頭の悪い」をかけた子「3行あけ」。(head butt → bad head)
 全くド「チ」が「交」か「2行あけ」。

○ 後日・大学の教室

へらへら笑って着席するアキラ一派。
 その横へオッサンが座る。よくみると、
 ガクである。
 ガク「へへ。よろしくな」
 戦慄するアキラたち。

オッサンに「もういっつ、飯に

○ 新入生「教員」

「ふはあ、このアキラと、と頭突きで、アキラキミオ。」

「ふはあ、このアキラと、と頭突きで、アキラキミオ。」

「滑る感じはるやない。全く訂正する。」

「訂正するの？」

「アキラの不在」がその理由ではないか？